

南京シンポジウムなどのプログラムの日本語

日中互恵的戦略事業による文化的交流の記念事業

国際シンポジウム

「東北、東南アジア諸国のがん予防戦略推進のための情報ネットワークの構築」

「実質的な子供がん予防教育推進のための文化交流事業」

趣旨

がんは人類の生命を脅かす最も重要な病気であり、最近になって東北、東南アジア諸国において急速に流行しつつある。今やアジア諸国でがん予防は切実な問題であり、がん対策推進のために強力なパートナーシップが求められている。最近の基礎研究の発展はがんの発生や進展に関する分子生物学的な機序解明のための新しい研究技術の開発に貢献してきた。

一方、アジア諸国におけるがん研究の発展に必要な基盤整備としてがん情報ネットワークの構築がわれわれに求められている課題である。然るにがん情報ネットワークの構築を介したアジアにおける互恵的協力関係は、アジアで開発された高度な医療技術を維持してくためにも不可欠と考える。

このような考えを背景に、私たちは日中両国の互恵的戦略事業として日本の厚生労働省と中国江蘇省の支援のもと、国際対がん連合アジア支部主導による以下のようなシンポジウム「東北、東南アジア諸国におけるがん予防戦略推進のための情報ネットワークの構築」、および文化事業として「子供を対象とした実際的ながん予防教育の推進」を開催することになった。

プログラム

国際シンポジウム

「東北、東南アジア諸国のがん予防戦略推進のための情報ネットワークの構築」

日程：2007年11月22~23日

場所：中国南京市ヒルトンホテル

主催：国際対がん連合アジア支部

支援団体：日本厚生労働省、中国江蘇省

参加国：日本、中国、韓国、タイ、ベトナム、モンゴル

参加団体：国際対がん連合、国際保健機関、国際がん研究機関

2007/10/31

2007年11月22日（木曜日）

9時～9時半

開会式

日本厚生労働省審議官（浅沼一成）挨拶
江蘇省衛生庁長挨拶
江蘇省がんセンター総長（唐金海）挨拶
愛知県がんセンター研究所長（田島和雄）挨拶
国際対がん連合代表（北川知行）挨拶

午前の部

9時半～10時

特別報告：アジアにおける高度技術ネットワークの構築

座長：田島和雄（国際対がん連合アジア支部運営委員長、日本）
三宅淳（東京大学、日本）

10時～11時

特別報告：世界のがんの流行様相とグローバルながん対策の推進

座長：マルコム・ムーア（国際対がん連合アジア支部長、タイ）
マックス・パーキン（国際がん登録学会、英国）
アンドリュウ・ウルリッヒ（世界保健機関、スイス）

11時～12時半

国際対がん連合によるアジアと世界のがん対策

座長：北川知行（国際対がん連合理事、日本国際対がん連合委員長）
マルコム・ムーア（国際対がん連合アジア支部、タイ）
田島和雄（国際対がん連合アジア支部運営委員会、日本）
フランコ・カバディ（国際対がん連合、スイス）

午後の部

1時～3時

東北アジアにおける最近のがん対策の現状

座長：ユーリン・チャオ（国立がんセンター疫学部長、中国）
シーシャン・ハオ（天津がんセンター、中国）
ケウンヨン・ユウ（国立がんセンター、韓国）
広橋説雄（国立がんセンター、日本）

2007/10/31

3時～3時半 休憩

3時半～4時半

中国と日本における地域特異的ながん探索

座長：ロバート・ケネラー（東京大学教授、日本）

ユーリン・チャオ（国立がんセンター、中国）

チー・フェンフェン（江蘇省がんセンター、中国）

山内正隆（国立放射線研究所、日本）

4時半～6時

日本、韓国、中国における刷新的ながん治療

座長：広橋説雄（国立がんセンター総長、日本）

上田龍三（名古屋市大学、日本）

ジェクン・ロー（延生大学、韓国）

ユアンカイ・シー（国立がんセンター、中国）

2007年11月23日（金曜日）

午前の部

9時～10時

東北、東南アジアにおけるがんの死亡・罹患の現状

座長：シーシャン・ハオ（天津がんセンター総長、中国）

日本：祖父江友孝（国立がんセンター、日本）

韓国：ソヒー・パーク（国立がんセンター、韓国）

中国：ピン・ザオ（国立がんセンター、中国）

10時～11時

座長：ケウンヨン・ユー（国立がんセンター総長、韓国）

モンゴル：ドンドブ・オユンチメグ（国立がんセンター、モンゴル）

ベトナム：レトラン・エンゴン（ハノイ医科大学、ベトナム）

タイ：スパニー・スラポン（ウボン・ラジャサニー大学、タイ）

11時～11時40分

特別報告：中国江蘇省のがん死亡・罹患の現状

座長：祖父江友孝（国立がんセンターがん情報研究部長、日本）

江蘇省：チエングオ・チェン（江蘇省啓東肝がん研究所、中国）

2007/10/31

上海市：ユータン・ガオ（上海がんセンター、中国）

12時半～2時半

文化交流イベント
「子供を対象とした実際のながん予防教育の推進」

午後の部

3時～4時

アジアがん情報ねとワークの一般的諸問題

座長：菅野純夫（東京大学教授、日本）

菅野純夫（東京大学、日本）

ロバート・ケネラー（東京大学、日本）

河原ノリエ（東京大学、日本）

4時～4時半

閉会式

マルコム・ムーア（国際対がん連合アジア支部長、タイ）

シーシャン・ハオ（天津がんセンター総長、中国）

注釈 1 国際対がん連合 (UICC) とは？

国際対がん連合：Unio Internationalis Contra Cancrum (フランス語)、
International Union against Cancer (英語)

国際対がん連合 (UICC) は世界のがん対策推進を目指した NGO 団体で、1933 年に設立され、現在では世界 90 ヶ国から約 280 団体 (その内日本は 28 団体、中国は 7 団体) が参加している。UICC は非利益、非政治、非派閥の団体で、世界の数多くのボランティア団体と協力体制を構築しながら、がん予防対策、タバコ対策、知識普及対策、組織支援対策、緩和ケア対策などの課題に取り組んでいる。特に、がん保健・医療の専門家育成や一般の人達の知識普及活動に力を入れている。

UICC の主要な任務は、世界中でがん対策に従事している諸団体に働きかけ、がん対策のための知識、能力、科学的知見などを世界に等しく提供できるように、また、それらの知恵を相互に分ち合うよう働きかけている。具体的には、がんの予防、早期診断・治療、緩和ケアなど、がん患者を救済するための系統的な方策の移譲活動を推進している。

UICC の主な構想は、次世代のため、生命の驚異となっているがん撲滅を目指し、世界中のあらゆる人々に働きかけていく原動力となることである。

国際対がん連合アジア支部 (UICC-Asia Regional Office)

国際対がん連合アジアがん予防戦略会議 (UICC Strategic Direction for
Cancer Prevention and Early Detection, Asia)

UICC-ARO 運営会議

- 委員長： 田島和雄 (国際対がん連合アジアがん予防戦略会議リーダー、日本)
北川知行 (国際対がん連合理事、日本)
シーシャン・ハオ (国際対がん連合理事、中国)
ランジト・カウール (国際対がん連合理事、マレーシア)
アルン・クルクーレ (国際対がん連合理事、インド)
ケウンヨン・ユウ (国立がんセンター総長、韓国)
ティラブッド・クハプレマ (国立がんセンター総長、タイ)
ムラト・タンセル (イズミール大学、トルコ)
フランコ・カバディ (国際対がん連合理事長、スイス)
マルコム・ムーア (国際対がん連合アジア支部長、タイ)

注釈 2 子供向けがん予防教育計画

日中両国で今なぜ子供にがん予防教育なのか？

- 1) 日中でがんが急増して一番の問題である
 - 2) がんは本人の心がけで予防可能な病気である
 - 3) 長期にわたって病んでいく病気であり、子供時代からの教育が有効な病気である
 - 4) 少子高齢化の中、両国の社会における子供の存在の意味が似ている
 - 5) 子供を通して各家庭へがん予防情報の啓蒙活動が可能である
 - 6) 子供の教育環境—母子関係の密着度が両国が非常に似通っているため家庭生活への介入スキルを共有できる
 - 7) OECD勧告以降、個人情報保護の世界的流れの中で、研究が困難になり始めている側面があるなか、今後の両国の医学研究の発展のためには、自分の情報を出すことで自分の健康を守るという意識改革を子供時代から始める必要がある
 - 8) 医療の標準化の第一歩は患者側の病の概念の共有がスタートラインであり、日中の疫学情報の整備がまず第一歩であるが、「病とは気づき」からであり、日常の暮らしに張り付いた、がんという病をめぐる情報の共有は今後の両国の医療協力の土台になるものである
-
- 9) 日中、そしてアジアでがん予防情報とその理解についての共有基盤形成のためのプラットフォーム作りが必要である